



37歳 埼玉県議会議員

# 吉田よしのり

通信 第158号 2012年 新春号  
新座市野寺2-8-48 (八石小学校となり)  
電話 048-483-2777  
FAX 048-483-2780  
ホームページ <http://www.yoshiday.com>  
メール [saitama@yoshiday.com](mailto:saitama@yoshiday.com)

【発行：民主党・無所属の会・県政へのご要望をお寄せ下さい！】

- 1974(昭和49)年7月27日、北海道生まれ(37才)。大阪府寝屋川市三井中央幼稚園、大阪市立新森小路小学校、西東京(旧保谷)市立青嵐中学校、板橋区立赤塚第三中学校、法政第一高校を経て、法政大学法学部を卒業。卒業後、野村證券㈱に入社。横浜、青森支店等にて資産管理、営業課にて勤務。勤務中は、ファイナンシャルプランナー資格、アナリスト・経済資格等も取得。
- 2000年2月、新座市議会議員に史上最年少、25歳で、市政始まって以来の3,855票でトップ当選。
- 2003年4月、埼玉県議会議員選挙に16,598票で2位当選。2007年4月、トップにて再選。
- 2011年4月、無投票にて三期目当選。現在、無所属、民主党を中心とする第二会派の政策調査会長をつとめる。財政規律をしっかりと堅持し、今後のあるべき社会保障制度、教育制度について議論を展開している。
- 趣味は、水泳、ドライブ、野球観戦、登山、写真、お茶等。好きな言葉は「初心不可忘」「お前がやらずに誰がやる、今、やらずしていつできる」



## 2012年がスタート、「政治」が大きく変わる一年に！！

いよいよ2012年がスタートいたしました。今年は世界的に見ても、1月の台湾の総統選挙を皮切りに、アメリカ、ロシア、フランス、韓国等で大統領選挙が行われ、また、中国でも指導者が変わる事となっており、世界の多くの国で政治のトップが変わる年となっています。

新座市に目を転じてみると、2月の新座市議会議員選挙、夏に予定されている新座市長選挙と、新座市政にとっても「政治」が大きく変わる一年となっています。

新座市政、埼玉県政、国政と様々な視点から政治の信頼を取り戻すべく、本年も全力で取り組んでいく所存です。



昨年は複数回にわたり被災地を訪れ、ボランティアのみならず、多くの関係者からのご意見を伺い、改めて、日頃からの危機管理体制の整備の必要性を感じました。被災地の復興を考えるのみならず、新座市や埼玉県の非常時における体制強化にも万全を期して参ります。

また、裏面に特集を組みましたが、さいたま新都心に、「県立小児医療センター」を移転、

大幅に体制を強化すると共に、老朽化のため建て替えを検討していた「さいたま日赤病院」も合わせて移転、一大医療拠点として整備する方向で検討することとなりました。

あきれほどの国政の停滞に惑わされることなく、埼玉県政においては財政状況も踏まえつつ、確実に、誠実に、県民の安心・安全のための施策充実を図って参ります。

### 12月定例県議会が閉会！

昨年12月22日、定例の埼玉県議会が閉会しました。今回の議会では、さいたま新都心に一大医療拠点施設を開発する計画が進められていることから、それに関連する予算や、災害医療体制の強化を図るため、災害拠点病院に対して、応急用医療資器材等の整備費用を新たに助成する予算、また、バスポート発給事務を各市町村へ移譲する(新座市は対象になっていません)条例案などが審議され可決しました。

また、来年度からの県政運営の方向性を示す新たな総合計画として、「埼玉県・新5か年計画」を策定することになり、それらの議案についても審議することとなりました。

次回の定例議会は2月中旬よりはじまる予定です。2月・3月定例議会は新年度予算を審議する議会でもあります。私も所属会派を代表して、新年度予算を徹底審議する予算特別委員に任命されました。皆様からの要望を出来るだけ取り入れられる予算とすべく、活動して参ります。

### 震災現場で考えました・・・

幾つかの地域にボランティアに参加しましたが、ある、壊滅的な被害を受けた市場での話を伺う事が出来ました。

復興には約3000億円が必要とされていると言われて、そのうち9割は国や自治体が負担してくれるそうなのですが、残りの300億ですら巨額でなかなか負担できない状況。そんな時に軒並みやって来たのが中国からの関係者らしいのです。多くの中国人関係者の名刺も見る事が出来ましたが、まさに、10年先を見越した中国人のすごさに驚きました。当然、金銭的な負担もしてくれると言う事なのですが、これからの、世界的な食糧問題を考えた時、また、直近でも「フード・ビジネス」と言われる問題を考えた時、単純に中国人に頼ることはどれだけ日本にとって危険なことが、考えさせられました。

### ・・・スタッフより一言・・・

久しぶりにスタッフコメント欄に登場の長谷川です！新座市民の一人で、二児の子持ちの母をやっています！

2011年は、日本が深刻な問題を抱えた年でもありましたね。私は子供のいる身でもあるので、子ども手当、年少扶養控除の廃止、放射性物質の問題など等、きれいごとではなく日々にかかわってくる問題なので、不安だったりもします。

そんな時は県議に真っ向からぶつかけたりもしています！皆さんも不満や疑問もありますよね！こんなこと言っているのか！？・・・でも全然大丈夫です！県議は私たちの側の気持ちを真剣に伝えてくれる人です！なので、何でもご意見をお寄せ下さい！諦めてしまわないでより良い新座市になるよう、食らい付いていきたいと思っております！



# 何より大切な命のために

## 吉田よしのり一行日記

- 10/30 日本平和学会研究大会
- 10/31 都議会民主党、大学教授との打合せ
- 11/1 新座市市制施行記念式典ほか
- 11/2 市内地域訪問、埼玉大学打合せ他
- 11/3 新座市学童保育の会運動会他
- 11/4 県議会打ち合わせ会議、地域訪問
- 11/5 市内地域訪問、事務所来客対応他
- 11/7 県議会あり方検討幹事会、陳情受付
- 11/8 国会にて地下鉄大江戸線延伸要望
- 11/9-10 県議会・企画財政委員会視察
- 11/11 大学教授との打ち合わせ、地域懇談会
- 11/14 さいたま市内会議
- 11/15 議会あり方検討会幹事会、面会等
- 11/16 四市消防連合点検、県議会会派会議
- 11/17-18 市内地域訪問、来客面会等
- 11/19 民主党埼玉県連常任幹事会ほか
- 11/20 新座市暴力排除・暴力追放大会
- 11/21 栄5丁目集会所開所式ほか
- 11/22 議会あり方検討会、後援会役員会等
- 11/23 都内にてシンポジウムほか
- 11/24 シルバー人材センター、褒章祝賀会
- 11/25 県議会・議会運営委員会
- 11/26-27 日本自治学会研究大会
- 11/28-29 市内地域訪問、大学教授打合せ
- 11/30 議会あり方検討会、会派調整会議
- 12/1 議会あり方検討会、市内地域訪問等
- 12/2 議会運営委員会、県議会本会議
- 12/4 市内地域訪問、来客対応等
- 12/5-6 県議会議案調査、国会にて打ち合わせ
- 12/7 議会議案調査、事務処理等
- 12/8 議会運営委員会、県議会本会議
- 12/9 県議会本会議、市内地域訪問等
- 12/10 放射能考える集い、消防の会忘年会等
- 12/11 インクルーシブ教育を考える集い
- 12/12 議会運営委員会、県議会本会議
- 12/13 本会議、埼玉県社会保険労務士会会合
- 12/14 議会運営委員会、県議会本会議
- 12/15 県議会議案調査、上田知事との会合
- 12/16 企画財政委員会、市議会議員役員会
- 12/17-18 さいたま市内会合、市内地域訪問等
- 12/19 県議会・議案調査、県内団体合会
- 12/20 公社事業対策特別委員会、TPP議連
- 12/21 県議会・議案調査、市議選打ち合わせ
- 12/22 議会運営委員会、県議会本会議
- 12/23 市内地域訪問、知人結婚式
- 12/24 商工会青年部クリスマス事業ほか
- 12/26 県庁にて事務処理、市内地域訪問
- 12/27 都内にて市議選打ち合わせ等
- 12/28 民主党第四区総支部会議等
- 12/29 市内地域訪問、年末挨拶回り等

## 新都心へ2病院 さいたま日赤 移転へ 小児医療センター

### 強化したい命を守る施策

#### 周産期医療体制の充実を

▲総合周産期母子医療センターとは、合併症妊娠や胎児・新生児異常に対応する高度な周産期医療を提供する施設です。

▲埼玉県は、唯一の総合周産期母子医療センター（埼玉医科大総合医療センター内・川越市）で、新生児集中治療室の増床や母体救命コントロールセンターの設置を進めてきました。しかしハイリスク妊産婦の集中で、同センターの過剰負担が起きています。

▲このため、ハイリスク妊産婦の約16%が東京都や近隣県への搬送を余儀なくされています。一般の産科医療機関ではハイリスク妊産婦への対応は、処置を行いなから相当な時間を費やして、搬送先を選定しています。

▲今計画は、さいたま赤十字病院に母体胎



児集中治療室を新設し、県立小児医療センターの新生児集中治療室を大幅に増床。2病院の連携により県内2か所目の総合周産期母子医療センターを整備し、ハイリスク妊産婦と重症新生児の受け入れ体制を強化しようとするものです。

▲また、母体搬送の混乱を改善し、他都県など遠方の医療機関に搬送せず、県内で安心・安全な出産を行う体制を整備することが必要です。

#### 全国ワースト1のたらいまわし

▲救急車を呼ぶと比較的短時間で到着しますが、そのまましばらく現場に停車している光景をよく見かけます。これは、救急車内で救命救急士が一定の処置を行っているものの、多くは搬送先の医療機関が見つからないことが原因です。

▲本県は重症以上の救急患者の搬送先医療機関を決めるのに4か所以上に要請を行った、いわゆる「たらいまわし」が増加しており、その割合は全国ワースト1です。

▲また、救命が必要な小児重症患者は、主に救命救急センターで対応することになっています。しかし、県内の同センターでも十分な

### 命のために力尽くします

#### 高度な救命救急医療を

▲こうした現状を改善するため、初期救急や二次救急医療機関の充実が必要で、さらに、これらの医療機関が安心して救急医療に専念できるように、そのバックアップを担う救命救急センターの機能強化も一刻も早く求められます。

▲さいたま新都心の医療拠点は、県内2か所目の高度救命救急センターや小児集中治療室の整備など、年齢に関わりなく、あらゆる診療領域にわたる重症救急患者に対して高度な救命救急医療を提供するゾーンです。同患者の救急搬送を県内で完結させるなど、円滑な救急搬送が実現されます。

#### 優秀な医療人材の確保を

▲さいたま新都心という立地条件は患者の利便性の確保はもとより、臨床研修医や後期研修医など若い

対応ができる施設は限られているため、都内の中核医療機関へ搬送されるケースも多いのです。

医師にとって魅力です。医療機能強化に不可欠な優秀な医療人材の確保が期待できるというメリットもあります。

#### 災害時医療体制の充実が可能に

▲防災活動拠点施設であるさいたまスーパーアリーナに隣接して整備すれば、大規模災害時に集中する多くの被災者への迅速な救護活動も可能となります。



既に埼玉県さいたま市が所有している土地に整備を予定中。  
(以前は東京スウィーがここに予定候補地として検討していました)